

「鉄道開通に関する書状を読む」

明治十六年（一八八三）二月二四日

〔本庄・熊谷間開通ニ付依頼〕（長谷川家文書No.八二九）

拝啓 陳者愈来ル廿七日ヲ以テ本庄・新町間運輸開業之事ニ相成候、付而者同日新町ニ於而凡四十人斗午餐ノ響應致候ニ付、同驛割烹店中有名ノ某店ニ於テ右午餐ノ用意為致度、付而ハ甚夕御苦勞之義ニ候得共、諸事可然御周旋被下候様致度、尤モ本日第三部出張堀口・稻垣江モ貴下ノ御指揮ヲ受ケ諸事可取計旨申通置候間、前条御含之上夫々可然

〔社章〕

〔日本鐵道会社〕

御差配相成度、尤モ萬事過般熊谷・本庄間開業ノ振合ヲ以テ御用意願度、此段御依頼申進候也

日本鐵道会社々長

明治十六年十二月廿五日^四 吉井友實

長谷川敬助殿

追伸 麦酒廿式本入壺箱・葡萄酒壺打八

明廿五日中二新町驛へ差廻置候間、御含迄

二申添候也

(封筒表)

神田小柳町

三河屋与三郎方

長谷川敬助殿

(封筒裏)

十二月廿五日

日本鍊道會社々長

吉井友實